下地町内会 防災マップ

作成日：令和3年2月

作成：下地町内会

想定される災害：土砂・地震

防災の基本

自助	**自分の命は、自分で守る！** どのような災害リスクの中で暮らしているか？を知る。 災害情報を、早くつかんで、自分の置かれているリスクを把握する。 危険と判断したら、避難行動に移す。（立ち退き避難が基本も、屋内避難も有効）
共助	**地域で助け合い、被害拡大を防ぐ。**（「個人と個人が、緩やかにつながる」という発想） 要配慮者（災害弱者）－高齢者、障害者等々を把握し、リスクを伝達する
公助	災害発生後、すぐには初動出来ない→公助に期待をしない

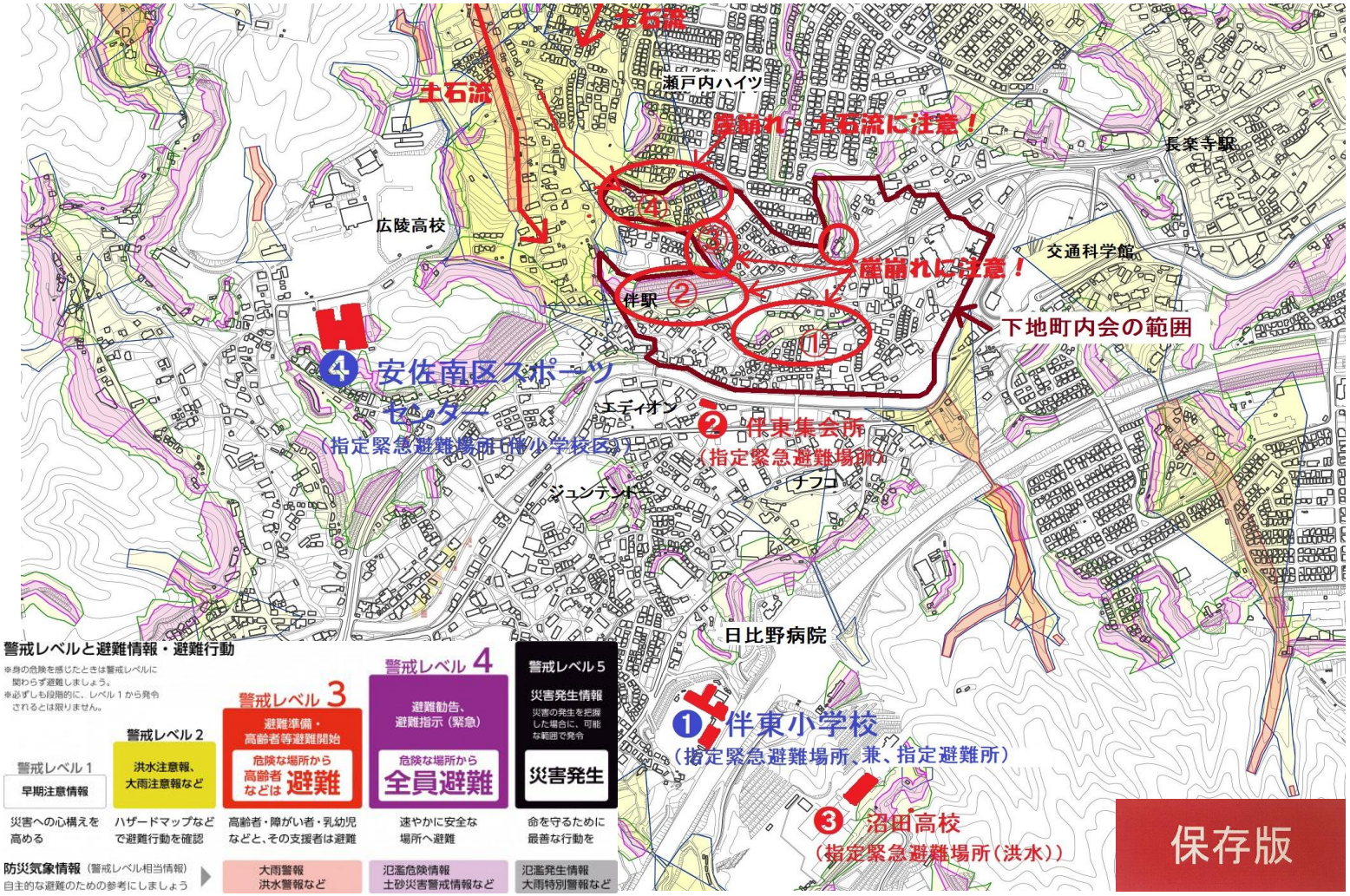
④ **安佐南区スポーツセンター**（指定緊急避難場所）

① 土砂災害（がけ崩れ）危険個所（3班）

② 土砂災害（がけ崩れ）危険地域（2班）

③ 土砂災害（がけ崩れ）危険地域（17班）

④ 土砂災害（がけ崩れ）危険地域（19班）



警戒レベルと避難情報・避難行動

※身の危険を感じたときは警戒レベルに関わらず避難しましょう。
※必ずしも段階的に、レベル1から発令されるとは限りません。

警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
早期注意情報	洪水注意報、大雨注意報など	避難準備・高齢者等避難開始 危険な場所から高齢者などは避難	避難勧告、避難指示（緊急） 危険な場所から全員避難	災害発生情報 災害の発生を把握した場合に、可能な範囲で発令 災害発生
災害への心構えを高める	ハザードマップなどで避難行動を確認	高齢者・障がい者・乳幼児などと、その支援者は避難	速やかに安全な場所へ避難	命を守るために最善な行動を
防災気象情報（警戒レベル相当情報）自主的な避難のための参考にしましょう	大雨警報 洪水警報など		氾濫危険情報 土砂災害警戒情報など	氾濫発生情報 大雨特別警報など

下地地区の災害リスクのポイント

注：こげ茶色線で囲まれた地域が、下地地区の範囲

下地地区の最大のリスクは、土砂災害です。
（がけ崩れだけでなく、土石流の危険もある）

土砂災害危険地域が、約20%の世帯に当て嵌まる
（自宅が土砂災害危険地域にあるか？必ず確認！）
（赤が、レッドゾーン、黄が、イエローゾーン）

安川の氾濫による浸水想定区域は、**ありません**。

指定緊急避難場所は、**伴東小学校**、伴東集会所。
伴小学校区の**安佐南区スポーツセンター**もOK

避難所開設情報は、防災アプリ「避難所へGO」でチェック

地震災害のリスク（想定される地震）

南海トラフ地震（当地では、最大震度5強）
発生から、1.5分の時間があるので、揺れに備える

芸予地震
約67年周期で発生（直近は、2001年） 最大震度6弱

己斐・西縁断層地震
直下型で影響地域は、局地的だが、被害は大きい

1981年以降の建物の全壊リスクは、ほぼゼロ
1981年以前の建物は、耐震診断を！

家具等の転倒によるけが防止策を！

防災グッズ・食料等の備蓄

必要となる時は、地域の被災の時だけではない。
遠方や、インフラの被災で、流通が止まることもある。

食料や水、燃料は、最低3日分は、備蓄する。

避難時に備えて、持ち出しが出来るようにしておく

備蓄品の保管は、被災リスクの少ない2階にする

避難すべき人は、地域の人全員ではありません。

自宅（居場所）が、**土砂災害警戒区域にある人**です。
（ハザードマップで、必ず、各自で確認を！）

避難すべき場所

① 安全な地域にある知人宅。親戚等の家々。
② 指定緊急避難場所
③ 自宅内のより安全な場所（2階や、崖と反対側等）
（立ち退き避難がリスクになる場合がある）

① **伴東小学校**（指定緊急避難場所・指定避難所）
災害発生前の指定緊急避難場所、発生後の指定避難所